



いわくら未来寄合 北小校区(仮称)準備会

きたよりかい③ ニュースレター

みんなで考えた これからの北小校区のカたち

人がつながり、
まちの未来をつくっていく！

みんなの活動が
つながり、育ち、
未来のまちを
つくっていく！

2026年
8月27日(木)
19:00~21:00
くすのきの家
ふれあい交流ホール
参加者:14名

1 開催概要

- 日時**
2026年8月27日(木)
19:00~21:00頃
- 会場**
くすのきの家
ふれあい交流ホール
- 今回のテーマ**
未来寄合の「骨格」を
考えよう！

2 オープニング

もっと親しみやすい
名前にしたい！

**きたよりかい
[北寄会]**

- 北小校区に人が寄り合う、寄り添う
- 「ほっき会」と読めば、新しい
ことを始める「**発起**」の意味にも！

3 今回のねらい

- 前回の「理念のタネ」から
一歩進んで…
 - 未来寄合は何のためにあるのか？
 - 何をするのか？
 - どのような「場」「存在」で
ありたいのか？
- 新しい仕組み・組織の
“幹(骨格)”をつくる時間です！

4 今年度の進め方

- 6月 これまでをつなぎ、
これからを考える
 - 7月 理念の種を見つける
 - 8~11月 具体的な姿・仕組みを
詰めていく
 - 12月 設立準備(予定)
 - 1~2月 設立総会・キックオフ(予定)
- お祭りへの出展や情報発信、
仲間づくりなども並行して
進めていきます！

5 前回までの振り返り

- ✓ 第1回：立ち上げの目標、
理念の大切さ、行政との連携 など
 - ✓ 第2回：未来寄合の理念のタネを見つける
 - 安心して幸せに暮らせるまち
 - 顔が見える関係
 - 困ったときに「助けて」と言える
 - 人と人とのつながり
 - 情報の掘り起こし
 - 対話の場を広げていく
-

6 グラレコで見る前回のまとめ



7 新しい組織イメージ(案)

- 多様な主体のつながりが
育む地域づくりの場
- 情報共有・課題の把握
 - 人や活動のマッチング
 - 分科会による取組の支援
 - 活動を共有し、次の一歩へ
- これからさらに
具体的に検討します！

9 グループ発表から ~3つの視点で見えてきた大切なこと~

Bグループ つながりを実感できる
「場」をつくりたい

リアルな
つながり

- 当初は、相談できる・情報を得られる“物理的な場”をイメージ
- SNSはつながりの入口として大切。でも、画面上だけでなく
実際に繋がっていると実感できる「**手触り感**」のある関係を
- 各家庭・組織・企業など、それぞれの場で頑張っているが、
それだけではしんどいこともある
- 「あなたの困りごとは、みんなの困りごと」と
して共有できるプラットフォームがあるとよい
- 世代の違う人が話せる「しゃべり場」をつくりたい
- 「ありがとう」は魔法の言葉
日常のあいさつや「ありがとう」が、つながりの第一歩に

Cグループ 立場を超えて話し合い、
取り組みにつなげたい

みんなで
話し合って
動かす

- 「場」というのは、すごくいい。
- どんな「場」か？いろいろな人が情報を持ち寄る場、共有する
場、情報が増えてアップデートする場。決定できる場、互
いに助け合える場になるといい。この「場」が、「役割」
- 目的についてはまとまらなくて、「課題解決」が目的だとい
う意見がある一方で、目的が「課題解決」だけだとワクワク
しない、それを前面に出すのがいいのかわからず意見がま
とまらなかった。もうちょっと魅力を感じるような、楽しい
目的にできるといいね。

対話を重ねながら、みんなで動き出す
そんな未来寄合をつくりたい

Aグループ わくわく・楽しさから、
持続できる仕組みへ

楽しいから
続けられる！

- エリアにひもづく、北小校区の振興を図るための計画・組織
- 合理化効率化(スケールメリット)。校区単位と行政区単位の
活動の特徴を活かす。
- 実験的な動きの受け皿に。地縁組織の棚卸しにもつながる
- 行政区は一番最後でいいんじゃないか。行政区をいきなり
頭に持ってくるとみんな逃げちゃう。
- 我々が何をしたいかということを詰めていく必要がある。

楽しさがエネルギーになり、
持続する未来寄合を目指したい

いわくらの未来を、みんなで育てよう

きたよりかいは、これからも続きます！